

## 法人状況

### (1) 法人の理念・基本方針等

#### ◆紫雲会の理念

『本法人は生計困難者に対する援護育成又は更生の措置を要する者に対して独立心をそこなうことなく正常な社会人として生活することができる様に援助することを目的とする』

本法人は前条の目的を達成する為次に掲げる事業を行う

1. 前条の目的達成する為の病院及び診療所の設置とその経営
2. 精神障害者社会復帰施設の設置とその経営
3. 精神保健研究所の設置及これに必要な調査研究
4. 精神保健並びに保健に関する相談指導啓発
5. 公衆衛生向上に対する研究と助成
6. 保健文化に対する向上助成
7. 有用な人材の養成
8. 精神障害者に対する障害福祉サービス事業
9. その他本法人の目的達成に必要と認める事項

(寄付行為)

上記の目的を達成する為に、明治42年神奈川県初の精神科医療施設として開設し、以来『医療福祉施設』として生計困難者への医療を行ってきました。法人設立100余年の歴史の中で知的障害者支援施設、精神障害者支援施設を多数開設してきました。そして精神障害及び知的障害に関する長い歴史と実績は、今後の3障害一体化の支援に関して強い力を発揮することが出来る法人であると自負しています。

#### ◆紫雲会の運営方針

##### 至誠一貫の 精神

- ・ 生きる勇気と希望を分かち合う信頼に応える精神医療を展開します
- ・ 相手の立場に立ち、誰もが地域で自立した生活を営む権利を保障します

##### 医療と福祉の 一体化

- ・ 福祉の精神を貫徹し、再発予防と安全かつ安心した地域生活継続の為の支援を実施します

##### 地域ネットワ ークの構築

- ・ 3障害一体を意識した『ワンストップサービス』
- ・ 医療と福祉及び地域とのネットワークを構築し、地域全体で支える社会の体制づくりを目指します

法人名



財団法人 紫雲会

★至誠一貫（誠意を持って常に相手の立場に立って支援を行う）の精神



1. 当事者及び家族の**人権**を最大限尊重します
2. 本人の**主体性**を重んじながら且つ自己選択・自己決定を促進します
3. **地域特性**を踏まえ、地域の他資源との連携、協働を図ります
4. 個々のニーズやその地域に応じた新しい支援の方法、資源の創設等を常に模索しながら**先駆的**な支援を行います
5. **計画的**に、地域生活支援を継続的且つ総合的に実施します
6. 障害の重複や高齢化問題に対して様々なネットワークを駆使して、**重層的**支援体制を構築します。

常に相手の立場に立った『真心と誠意』⇒**至誠一貫の精神**を貫きます

法人名



財団法人 紫雲会

★医療と福祉の一体化

当法人は、**医療と福祉の一体化**を目指し、治療から地域生活までを一連の流れとして捉え、法人内施設である医療機関と福祉施設（生活訓練施設・グループホーム・生活支援センター）また、法人系列の施設（知的障害児・者施設）及び地域の様々な関連機関など、地域ネットワークを構築しながら**地域密着型支援**を実現します。

★財団法人 紫雲会

- 横浜病院（入院治療・外来治療・デイケア・作業療法・再発予防プログラム・退院支援プログラム等）

⇒明治 42 年開設し、100 余年の歴史の中で医療と福祉一体の支援を目指し、様々な関係機関及び地域と連携を図りながら運営しています。

- 生活訓練施設『ゆかり荘』（服薬・通院等の医療的指導及び社会参加、自立の為に生活指導などを実施する精神障害者入所施設）

⇒平成 7 年開所し、精神障害者の社会復帰の為に自立訓練を行い、入院から地域への中間施設として多くの利用者を地域社会に送り出しています。

現在は自立生活アシスタント事業も併せて実施しています。

- グループホーム『ふじハイツ』（地域生活継続支援と再発防止を目的とした共同生活の場の提供）

⇒平成 23 年開所し、利用者が再発することなく地域での生活を維持することが出来るよう、地域の協力を得ながら運営しています。

- 緑区生活支援センター（居場所としての機能と地域生活に於ける生活全般に関わる相談支援事業の実施）

⇒平成 18 年開所し、様々な支援と地域における偏見・差別を払拭すべく普及・啓発活動等を実施しています。地域移行・地域定着支援事業並びに自立生活アシスタント事業、宿泊支援事業も実施もしています。

★社会福祉法人 光風会

- のぼら園（障害者支援施設）
- すみれ園（知的障害児支援施設）
- 工房「ごんた村」
- 地域支援室相談センター
- 5ヶ所のグループホーム（知的障害）

★社会福祉法人 光風会★

『光風会』は、財団法人紫雲会が医療福祉の理念の基、戦後の動乱期に横浜市内で保護された知的障害のある戦災孤児の為に、昭和 28 年知的障害児の入所施設「光風園」を開設し、平成 7 年「社会福祉法人光風会」（のぼら園・すみれ園）として独立しました。

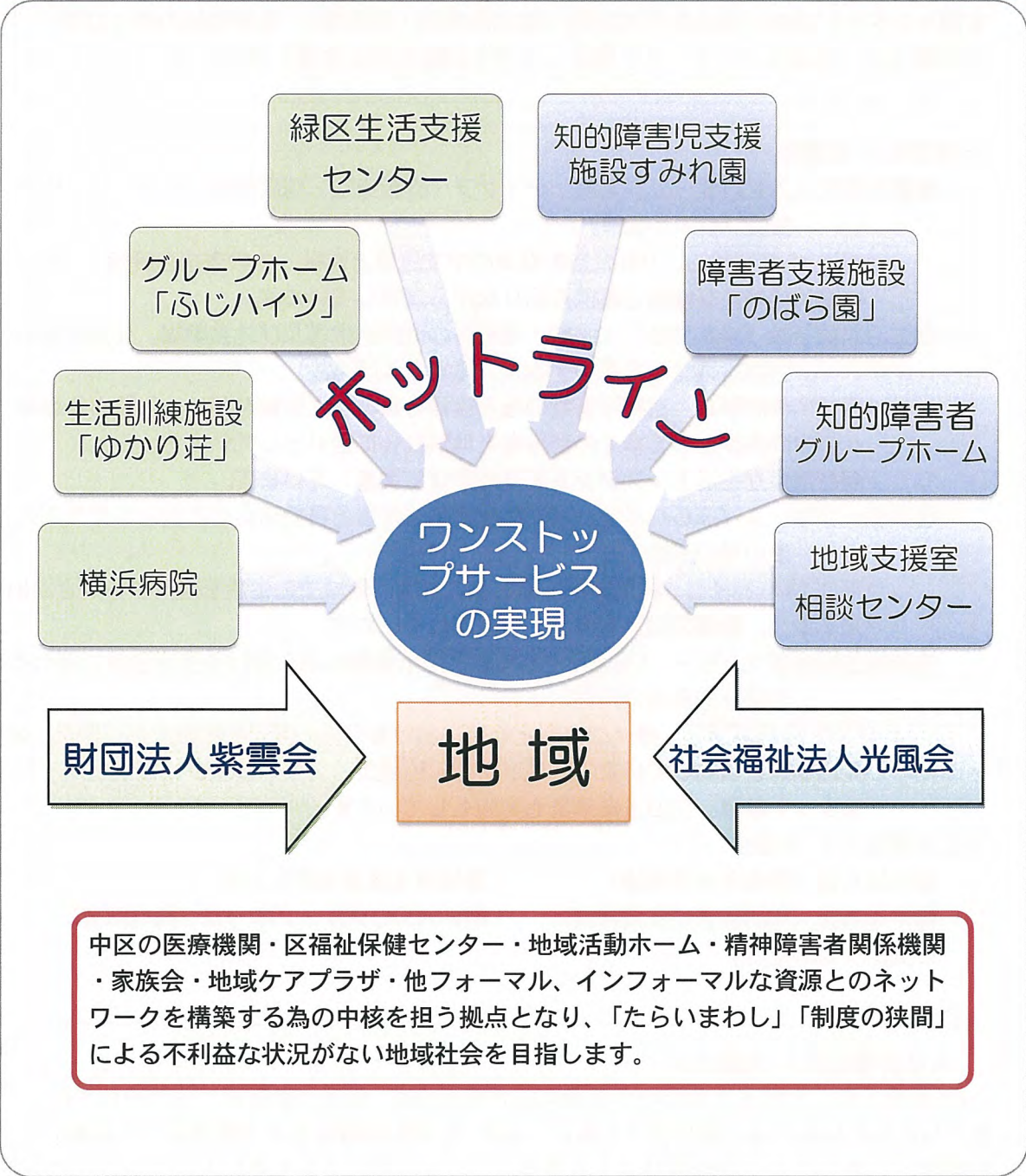
現在、財団法人紫雲会の会長が理事長を務め、**精神障害者の福祉医療施設「紫雲会」と知的障害者支援施設**である「光風会」の両法人の実績及び連携による『力』は、今後の横浜市の障害者福祉の発展に寄与することと確信します。

法人名



財団法人 紫雲会

紫雲会と光風会との『ホットライン』及び地域とのネットワークによる  
**ワンストップサービスの実現** を目指します。

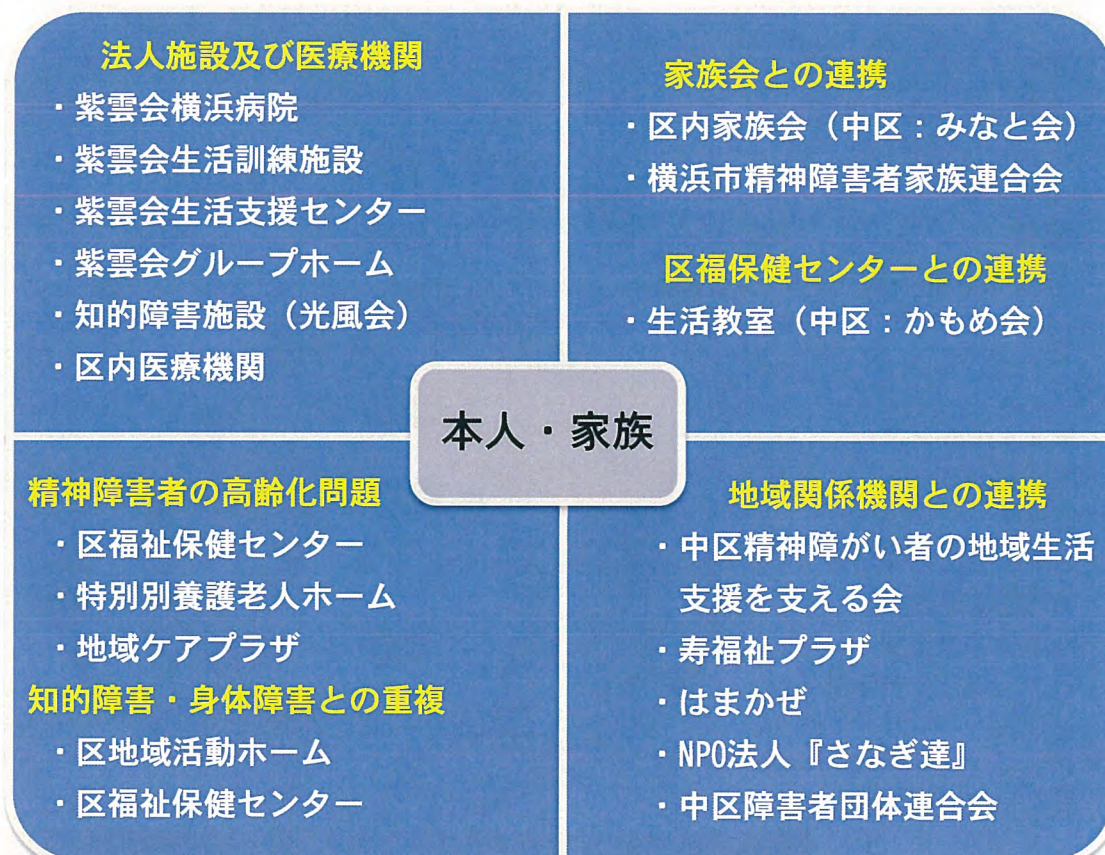


法人名



財団法人 紫雲会

★ 3 障害一体型・地域密着型支援を実施する為の地域ネットワーク



中区生活支援センターは、特に「家族会」「中区福祉保健センター」「地域関係機関」との連携によって、地域との密着型支援を実現します。

◆中区は、横浜の中心地であり、政治、経済、行政、文化、ビジネスの中核を担っています。中区から発信される情報は横浜市の最新且つ最重要な情報発信地として、中区生活支援センターが横浜市内18区の支援センターの中核を担うことにより18区支援センターのネットワーク化を図り、**横浜市生活支援センター全体のレベルアップ**を目指します。

※現在、横浜市内支援センター連絡会の代表を緑区生活支援センターが担っています

◆紫雲会の「ホットライン」と精神障害に関連した機関、施設及び行政との連携はもとより、他障害、高齢等に関する諸課題を『**地域全体の課題**』として捉え、区内の様々な地域の資源と密接な連携を取りながら解決を図ります。

◆当法人は地域における障害者支援を個々の施設単独での支援ではなく、その地域の特性や当事者の障害特性を考慮しながら、精神障害と他障害との重複や高齢化及び地域課題等を踏まえた支援と捉え、様々な社会資源が一体化された『**ワンストップサービスの拠点**』を目指し、その**中核を担う団体**として展開していきます。

法人名



財団法人 紫雲会

『セーフティネットの拠点』として「公助」「共助」「自助」の橋渡しをします

**公助**

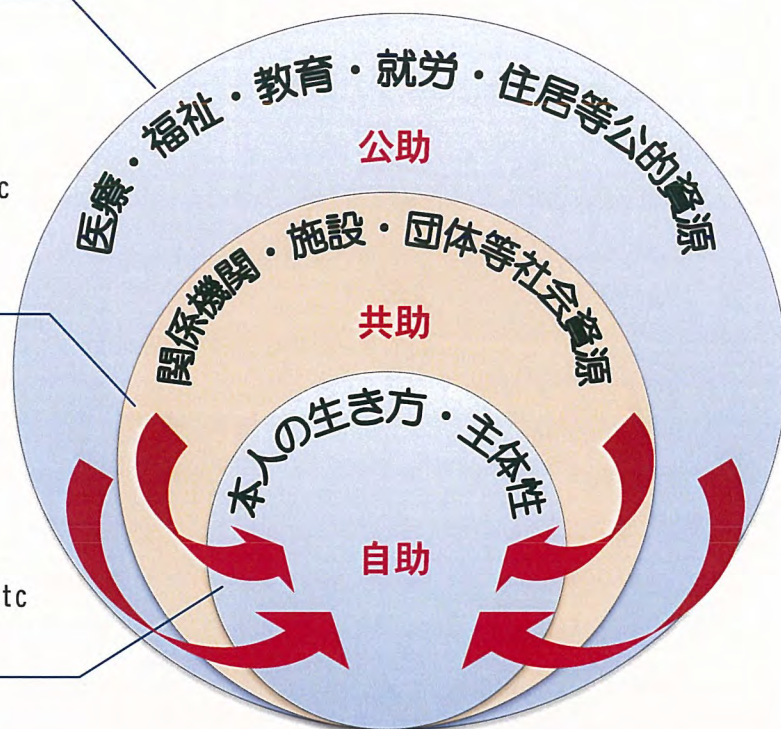
- ・病院・クリニック
- ・区福祉保健センター
- ・小中学校
- ・職場
- ・住宅（生活の場） etc

**共助**

- ・生活支援センター
- ・地域活動ホーム
- ・家族会
- ・区障害者団体連合会
- ・他障害関連施設
- ・地域ケアプラザ
- ・ピア・ボランティア etc

**自助**

- ・自分らしい生き方



本人の主体性・自己選択・自己決定を促す

- ◆生活支援センターは本人の地域生活を支える『セーフティネット』を形成する為の拠点をなす役割を担っていると考えています。
- ◆本人自身が主体性を伸ばし、自分の生き方を自分で選択し、決定する“力”を付けながら、様々な助けを借りて地域生活を送ることが重要だと考えます『自助』（エンパワメントの視点）
- ◆生活支援センターは地域の関係機関や関係団体（フォーマルサービス）、ボランティアや地域住民、ピアサポート、趣味サークル等（インフォーマルサービス）を有機的に連携し、『自助』+『共助』によって本人の主体性をサポートします。
- ◆更に公的な機関による制度や施策の導入を生活支援センターのネットワーク機能を活かして『自助』+『共助』+『公助』という形で、本人の地域生活継続の為の支援体制を構築します。  
※当法人は今までの経験と実績・ノウハウをもって生活支援センターが『地域生活のセーフティネット』を形成し、障害者とその家族を支える核となり得ると自負しています。

法人名



財団法人 紫雲会

## (2) 財政状況

一昨年度横浜病院の病棟建替えによる赤字も昨年度、今年度の経営立直しにより、ほぼ解消されつつあります。また、別添の収支決算書及び納税証明書の通り財団法人紫雲会の各施設共に財政は健全です。

今後、更に効率化を図り、安定した経営を実現します。

## (3) 応募理由

当法人は、明治時代より精神病患者（薬物・アルコール含む）に対する医療を手掛け、医療福祉施設として生計困難者への医療にも力を入れてきました。また、救護法及び精神病院法による神奈川県代用精神病院の指定等も受けてきた等、我国精神医療の黎明期から一貫して精神病患者の医療・リハビリ等々を中心として貢献してきました。また、いち早く『知的障害児・者の収容施設』を設置、更に『精神障害者生活訓練施設』、『緑区生活支援センター』及び『グループホーム』の創設など、**医療と福祉の両側面**に於ける運営を目指してきました。

今回、『中区生活支援センター』の応募を検討するに当たり、寿地区を初めとする中区の様々な施設や関係機関、医療機関等へ訪問し、中区の地域特性や障害者の生活状況等を検証した結果、当法人の医療及び福祉に対する**理念及び基本方針と合致**した運営が可能であると考えました。また、『緑区生活支援センター』は中区と同様に**地域活動ホームとの複合施設**であり、非常に有意な関係での連携を保っており、その経験や実績を十分に活かすことが出来ると考えます。

更には、当法人の将来目標である『**医療と他職種チームによるアウトリーチ支援**』について、当法人の医療機関同士のネットワーク、精神福祉関連施設（緑区生活支援センター・生活訓練施設「ゆかり荘」・グループホーム「ふじハイツ」）同士のネットワーク及び知的障害児・者施設とのネットワークと実績が、最大限に発揮されることと考えます。

こうした背景から、中区の「**多様なニーズ**」に応えるには、**強い連携力と積み重ねてきた実績及び支援の専門性とノウハウ**を駆使することにより、当法人による運営が最も適切であるとの理由により応募しました。

1. 医療と福祉の両側面を考慮した運営・当法人の理念及び基本方針と合致

2. 地域特性と多様なニーズに対応出来る専門性

3. 地域活動ホーム及び他障害施設との連携の実績

4. 今までの運営によって培った実績及び支援の専門性とノウハウ

5. 医療と他職種チームによる『アウトリーチ支援』の実現

法人名



財団法人 紫雲会

## 1. 医療と福祉の両側面を考慮した運営・当法人の理念及び基本方針と合致

医療施設は治療のみに目を向けるのではなく、地域生活の安定と再発防止を念頭においた福祉という将来像を意識し、『福祉モデル』の理念を基本におきつつ、個々の障害者の生活状況を基盤として日常生活を支える為に必要不可欠の医療サービスとして、医療が福祉と有機的な連携を図りながら提供しています。

また前述の通り、当法人は100余年の歴史の中で「生計困難者」に対する医療と福祉を展開してきた背景があり、中区の様々な地域で生活する障害者の生計状況を鑑みると、当法人の理念と合致しています。

## 2. 地域特性と多様なニーズに対応できる専門性

中区の施設・関係機関を訪問し、地域の特性や課題、ニーズ等を検証しました。

《訪問先》 寿福祉プラザ、はまかぜ、NPO法人「さなぎ達」、区福祉保健センター 本牧ホーム（特養ホーム）、ケアプラザ、ワシン坂病院（医療機関）等々

★中区は、横浜市の中心であり経済や文化、情報、福祉等あらゆる事柄において『発信の源』であると考えられます。更にその中心に位置する『商業や観光の街』と『寿地区』、港湾の街で比較的新しい『本牧地区』、また閑静な住宅街である『山手地区』と言った様に、多種多様な地域住民で構成されています。

その地域によって異なる特性を持ち、そこから発生する課題やニーズも多種多様であると考えられます。その多様な課題やニーズに向き合うことが出来る専門性と経験、知識、実績を持つ当法人の運営が最も適当であると自負しています。

※中区の課題とニーズ及び対応についての詳細は後述します

## 3. 地域活動ホーム及び他障害施設との連携の実績

法人内の施設「緑区生活支援センター」と「みどり地域活動ホーム『あおぞら』」との連携の実績を活かして、3 障害一体的な包括的且つ重層的な支援が実現できます。

また、他障害施設として「知的障害者生活介護型施設『中山みどり園』」、「中途障害者地域活動センター『緑工房』」等との有機的な連携を果たしています。

この実績と連携力を中区の3障害及び高齢に対する支援に活用することが出来ると考えています。

※連携についての詳細は後述します

## 4. 今までの運営によって培った実績及び支援の専門性とノウハウ

横浜病院、緑区生活支援センター、生活訓練施設「ゆかり荘」及びグループホーム「ふじハイツ」に於ける関係機関・関係施設・地域との連携力と多様なニーズに応えることが出来る精神保健福祉士としての専門性と今までの運営で培った相談支援事業における実績とノウハウを最大限に活かした支援を展開します。

相談については、日常生活全般のみならず、医療の分野、制度や社会資源等に関することなど多岐にわたる相談に対応することが出来る実績を持つ法人であると考えます。

また疾病の種類や症状も近年は非常に多様化しており、法人内に医療施設があることのメリットとして、疾病別の支援方法などにも対応することが出来ます。

※詳細は後述します

法人名



財団法人 紫雲会



### 5. 医療と他職種チームによる『アウトリーチ支援』の実現

紫雲会横浜病院は、長い歴史の中で、中区内の有床病院（みなと赤十字病院、ワシントン坂病院）やクリニックはもとより、他医療機関とのネットワークは非常に良い形で確立されています。

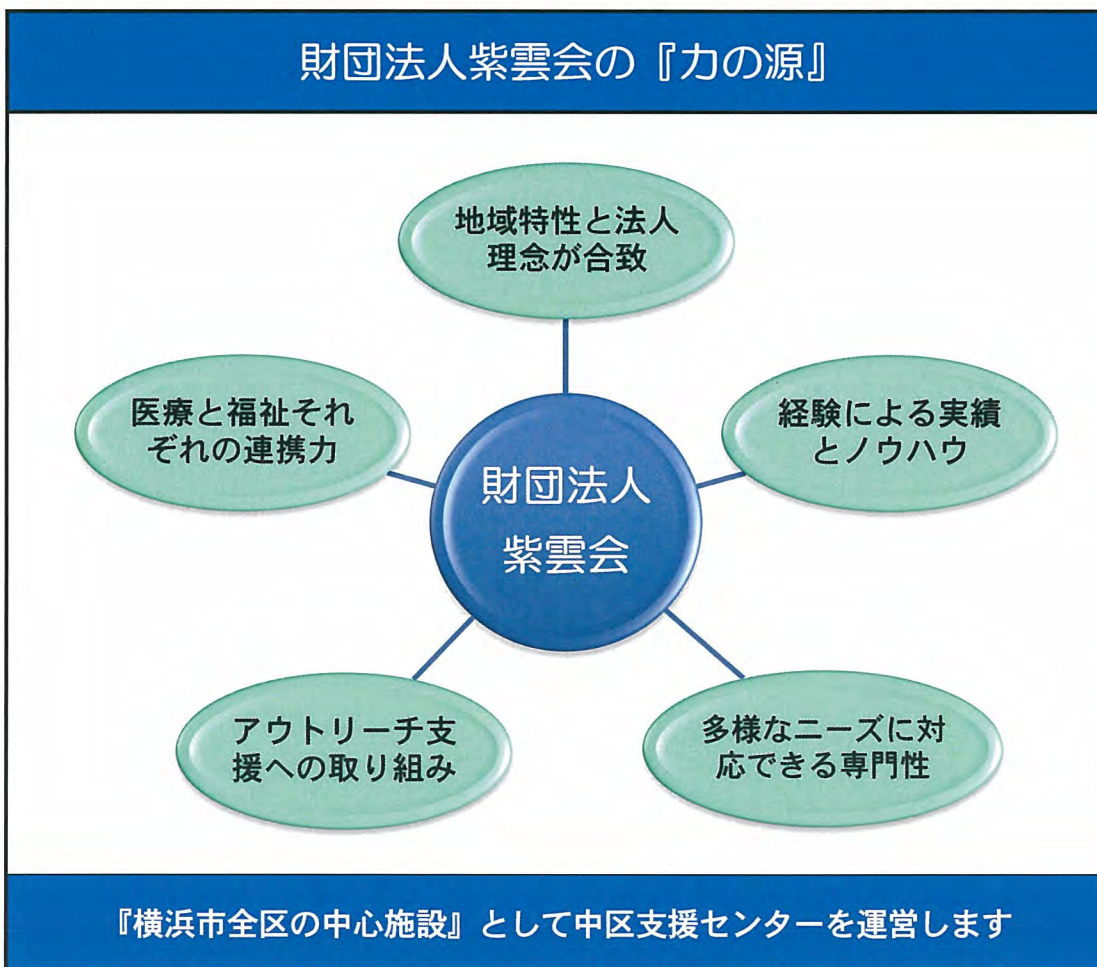
また、生活訓練施設『ゆかり荘』においても、16年の歴史の中で中区内クリニック等を通院先にもつ利用者が多数入所している経緯から、中区の医療機関との連携は良好です。

その様な背景から **中区内の医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士等との連携によるアウトリーチ事業**は、可能であると考えます。

また、当法人においても上記の医療従事者は多数おり、紫雲会横浜病院と中区内医療機関との有機的な連携によって、この事業展開の効果が期待できると考えられます。

※アウトリーチについての詳細は後述します

★上記、法人としての1～5までの理由及び現在運営中の6年に亘る『緑区生活支援センター』における実績「地域活動支援センター事業」「指定相談支援事業」「地域移行・地域定着支援事業」「自立生活アシスタント事業」「生活支援事業」等の実績と更に「生活訓練施設『ゆかり荘』」「グループホーム『ふじハイツ』」「知的障害施設『光風会』」等との**有機的な連携と専門性**をもって中区生活支援センターの指定管理者を応募致しました。



法人名



財団法人 紫雲会